

<研究成果の紹介>

カンキツにおけるミカンハダニの薬剤感受性の現状と防除対策

紀南かんきつセンター

1. 成果の内容

ミカンハダニは薬剤抵抗性がつきやすいため、難防除害虫として問題となっています。近年、防除効果の高い殺ダニ剤が数剤登録されたことから、ミカンハダニの防除にはこれらの剤が使用されています。しかし、これらの殺ダニ剤も、数年で抵抗性のハダニが発生する恐れがあります。そこで、各種殺ダニ剤に対するミカンハダニの抵抗性を調べ、抵抗性の発達した殺ダニ剤には、他の農薬を混用することで、防除効果を高めることができずか検討しました。

各種殺ダニ剤に対するミカンハダニ雌成虫の感受性を検討したところ、新規登録されたコロマイト水和剤、カネマイトフロアブル（平成11年4月現在登録申請中）で高い感受性が認められました（図1）。また、ミカンハダニの卵では、パノコン乳剤、カネマイトフロアブル、バロックフロアブルで高い感受性が認められました（図2）。単剤の試験で感受性の低かったダニカット乳剤は、低濃度のマシン油乳剤と混用することで、高い防除効果が認められました。また、殺ダニ剤同

士の組み合わせであるパノコン乳剤とオマイト水和剤の混用でも高い防除効果が認められました（表）。

2. 技術の適用効果と適用範囲

ミカンハダニの基幹防除は新規殺ダニ剤を用いることで防除が可能です。しかし、果実収穫後の秋期、冬期の防除で、新規の殺ダニ剤をすでに1回使用してしまった場合、表に示した組み合わせの混用で防除が可能です。

3. 普及・利用上の留意点

新規の殺ダニ剤は高い防除効果が期待できますが、抵抗性のハダニの出現を防ぐため、同一薬剤の使用は1年間に1回を心がけて下さい。

今回示した薬剤の混用を行う場合、秋期と冬期以外では検討を行っていないので、秋期と冬期以外での使用は控えて下さい。

（かんきつ担当 山上 尚史）

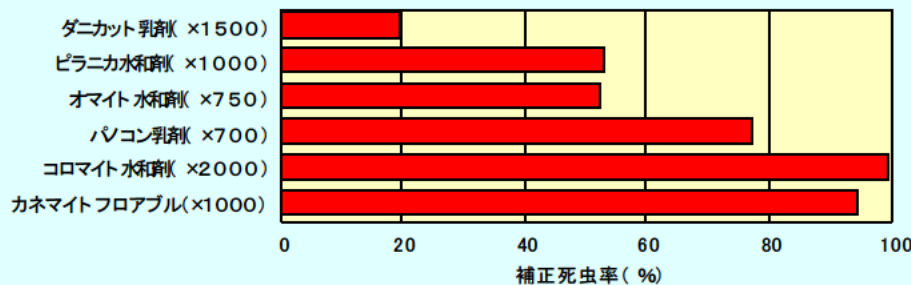


図1 紀南かんきつセンター内で採取したミカンハダニ雌成虫の各種薬剤に対する感受性(室内試験)

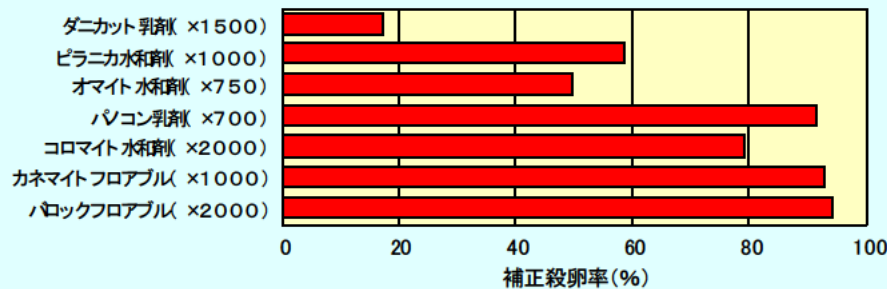


図2 紀南かんきつセンター内で採取したミカンハダニ卵の各種薬剤に対する感受性(室内試験)